府立香里丘高等学校
校長　宮内　順

令和５年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

一人ひとりの長所を伸ばし、「考動力」のある生徒、違いを認め合える豊かな人間性を持った生徒を育成する
各々が充実した学校生活をおくる中で、将来の目標を見つけ、自らの果たすべき社会的な役割を自覚できるようにする
1　生徒の可能性を広げ、希望する進路の実現を図れる学校
2　一人ひとりに個性を生かした活躍の場があり、互いに尊重し合える学校
3　教職員が一体となって教育活動の充実を図り、地域から信頼され、愛される学校

２　中期的目標

1　学力の向上と希望進路の実現
(1)　確かな学力の定着と授業力の向上
ア　教員間の授業公開や研究、生徒による授業評価等を活かし、授業力向上に取り組む
イ　基礎学力の定着度を測り、全教科で学習内容や方法を基礎的事項の確実な定着を図る
ウ　生徒が思考を深めたり、積極的に発表したりする機会を増やし、論理的思考や判断力、表現力等を育む
(2)　一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実
ア　自主的学習を支援し、家庭学習習慣の定着、学習意欲と学力の向上をめざす
※　学校教育自己診断「家庭学習への取り組み」Ｒ７年度に生徒 75%以上（Ｒ２：62%、Ｒ３：66%、Ｒ４：68%）、保護者 70%以上（Ｒ２：59%、Ｒ３：62%、Ｒ４：57%）をめざす
イ　進学講習、授業の補習等を組織的・計画的に実施する
ウ　アクティブ専門コース（音楽・スポルト）の充実により、学習意欲や自己肯定感、リーダーシップ等の育成を多角的に図る。
※　音楽コースでは、Ｒ３年度に獲得した学校経営推進費で設備・授業内容の充実を図っており、Ｒ７年度に授業アンケート 95%以上、コース選択者 20 人以上を維持するほか、授業課題として作曲した曲を全国コンクールに提出して入選をめざす
エ　図書室・自習室の利用促進を図る
(3)　ＧＩＧＡスクール構想への対応
ア　１人１台端末や新たに整備されたＩＣＴ機器等を用いて、生徒の理解がより深化するような授業づくりを研究・実践する
※　学校教育自己診断「ＩＣＴ機器を効果的に活用」生徒、教員ともＲ７年度 90%以上（生徒Ｒ３：78%、Ｒ４：80%、教員Ｒ３：73%、Ｒ４：84%）
イ　情報委員会等を中心に研修などを計画的に実施し、効果的なＩＣＴ活用に向けてスキルの底上げや情報共有を図る
(4)　３年間を見通したキャリア教育と進路指導
ア　生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、積極的に挑戦し、粘り強く取り組み、実現させることができるよう、進路指導部・学年等を中心に指導・支援する
※　Ｒ７年度の国公立大・関関同立の現役合格者計 50 人以上（Ｒ２：40 人、Ｒ３：31 人、Ｒ４：36 人）をめざす

2　豊かでたくましい人間性の育成
(1)　部活動や学校行事等の充実
ア　学業との両立を促し、より強い達成感や充実感が得られるようにする
イ　生徒会等を中心に行事の企画・運営を行うことによって自治意識を高め、協働する力、困難を乗り越える力等を経験させる
(2)　基本的な生活習慣の改善・定着
ア　挨拶や時間厳守、交通マナー、事故防止などの指導を通じ、意識向上と基本的生活習慣の確立を図る
(3)　国際交流活動等の再開
ア　海外研修等交流活動（オンラインも含む）を通して、ＳＤＧｓを意識したり、多様な文化を体験したりして視野を広げる
(4)　人権や多様性の尊重
ア　授業・ＨＲ活動等を通して、他者を理解し尊重する心や態度を養う
イ　教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、保護者や関係機関等との連携を密にすることによって、相談しやすく、安心・安全な環境を確保する

3　開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上
(1)　地域等との連携
ア　部活動や生徒会活動等を通して、地域連携活動を推進する
イ　探究や部活動などを通じて大学等外部団体や外部人材との連携・協働を進める
(2)　広報活動のさらなる充実
ア　ＨＰ更新や学校見学会、中学校訪問等で魅力発信の強化に努める
イ　学校ブログやメール配信などを活用し、保護者との情報共有を促進する
(3)　人材育成の取り組み
ア　「香里会（新任・若手を対象にした研修チーム）」等を通し、経験の少ない教員の育成に力を入れる
(4)　働き方改革の推進
ア　プロジェクト委員会等を中心にさらなる業務の精選と組織の再構築を図り、生産性の高い職場をめざす
イ　校内の課題の共有化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる環境をつくる
※　時間外勤務が月間 80 時間以上の教員の年間延べ人数をＲ７年度までに 10 人以下（Ｒ２：39 人、Ｒ３：23 人、Ｒ４：30 人）をめざす
(5)　施設・設備の充実と美化
ア　生徒・教職員等が快適で効率良く学校生活を過ごせるよう、設備・備品の更新や修理改修、整備に務める
イ　生徒の美化意識の向上と、生徒主体の美化活動の充実を促し、快適な環境を保つ

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立香里丘高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［Ｒ４年度値］	自己評価
1　教育力の向上と希望進路の実現	(1)　確かな学力の定着と授業力の向上	ア　各教科で研究授業等を積極的に実施し､｢生徒が主体性を持って学び、理解できる授業」をめざす組織的な授業改善の取組みの活性化 イ　学力生活実態調査で基礎学力の定着度を測り、各教科で学習内容や方法の検討・改善を行う ウ　授業の中で自分の考えを深めたり、まとめて表現したりするような時間を設け、思考力・判断力・表現力等を培う 特に「総合的な探究の時間」では、情報収集・目標設定・討論・調査・まとめ・発表の一連の活動を通し、これらの力を育成する	ア　学校教育自己診断（生徒）「授業は適切で分かりやすい」85%以上維持［86%］ 授業改善の取り組み状況 イ　１年、２年の学力生活実態調査のＧＴＺ「Ｂ」定着［１年：Ｂ３、２年Ｃ１］ ウ　学校教育自己診断「授業の工夫」85%以上［83%］ 「探究」活動の生徒アンケ満足度 80％以上を維持［１年：90.0%、２年：86.4%、３年：84.7%］	
	(2)　一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実	ア　ＷＥＢ予備校や授業外の学習指導活用を促し、自主的な学習、家庭学習充実への取組みを支援するまた、入学直後に高校生活や学習法について説明する学習オリエンテーションをさらに充実させる イ　生徒のニーズに応じた進学講習、補習等を計画的に実施し、主体的に学び続ける姿勢を身につけさせ、学力向上・定着をめざす。 国公立や難関私大をめざす「アドバンスクラス」の来年度開講に向けた環境整備や支援も継続する ウ　アクティブ専門コースがより生徒のニーズに応える魅力的なものになるよう、高大連携等を活用して授業の充実・深化をめざす エ　図書室・自習室の利用を促す。特に読解力・文章力など学習の基礎となる力を養うため、読書の習慣づけを促す	ア　学校教育自己診断「家庭学習への取組み」(生徒)70%以上［68%］(保護者) 60%以上［57%］ ＷＥＢ予備校参加者数 90人以上維持［92 人］ イ　学校教育自己診断（生徒）「進路実現のための学習支援が充実」90％以上［88%］ (教員)「学習到達度の低い生徒への指導が行われている」65%以上［64%］ 「みらいG」参加者 20 人以上［13 人＜１年生のみ＞］ ウ　アクティブコースの次年度選択者数計 60 人以上維持［69 人］ エ　図書室の貸出冊数を維持［1074 冊］	
	(3)　ＧＩＧＡスクール構想への対応	ア　ＩＣＴ（特にリーディングＧＩＧＡハイスクール事業で新たに獲得したプロジェクター等）や１人１台端末を活用した協働的な学びへの支援を推進し、生徒の集中力を高め、より効果的な授業につなげる イ　教育センターの研修等を活用するほか、教員同士の相互授業見学等を通して、ＩＣＴ活用方法を含めた生徒の能力を伸ばすアイデアの共有を図る	ア　学校教育自己診断「ＩＣＴ機器を効果的に活用」生徒・教員とも 85％以上［(生徒）80％、(教員）83%］ イ　ＩＣＴや１人１台端末を活用するための教員研修を年２回以上、研究授業を年２回以上実施	
	(4)　３年間を見通したキャリア教育と進路指導	ア　「学力生活実態調査」の活用、大学見学会、進路情報の提供等を通じ、キャリア意識の向上を図るまた、生徒が目標とする進路をめざして粘り強く取り組めるよう、多角的に支援する	ア　学校教育自己診断「進路選択のための情報提供」80%以上維持［83%］ 「将来の進路や生き方について考えることができる」90%以上［89%］ 国公立大･関関同立現役合格者計 35 人［36 人］	
2　豊かでたくましい人間性の育成	(1)　部活動や学校行事等の充実	ア　部活動内での学習支援の充実 行事や部活動の終了時間の徹底やノークラブデーの完全実施等により、学習との切り替えを促す イ　生徒のリーダーシップ養成のため、体育祭・文化祭等の学校行事を企画・立案する機会を増やす 「香里を考えるＨＲ」等を通し、積極的に学校生活の充実に取り組むよう促す	ア　学校教育自己診断「学習・部活動・行事の両立」(生徒) 90%以上［88%］、(保護者）70%以上［68%］ イ　学校教育自己診断「生徒会活動は活発」88％以上［88%］ 「行事は、生徒を中心に組織的･効率的に運営」95%以上維持［96%］ 生徒からの学校生活改善提言などの具体的な内容・状況を評価	
	(2)　基本的な生活習慣の改善・定着	ア　挨拶や交通マナーなどの指導により、校則の順守と規範意識の向上に取り組む 特に生徒が被害者・加害者にならないよう、自転車のマナー指導を強化する けじめのある生活を定着させるために、時間を守る意識を高める。遅刻者に対しては、生徒指導部･学年等が連携して段階的な指導を行う	ア　遅刻者数を前年度から減らす［717 人］ 毎登下校時に自転車指導を実施できたか 挨拶や声かけを継続的に実施・指導できたか ＰＴＡによる登校指導４回以上を維持［４回］	
	(3)　国際交流活動等の再開	ア　「国際交流委員会」が中心となり、コロナ禍で中断している海外の生徒らとの本格的な交流（オンライン含む）再開に取り組む。 事情が許せば、生徒の海外研修を実施する	ア　国際交流活動を年２回以上［オンライン３回、対面２回］ 海外研修の再開	

府立香里丘高等学校

	(4) 人権や多様性の尊重	ア 授業・ＬＨＲ・各種行事を通じて、人種や国、性別、障がいの有無等にこだわらず、多様性を認め合い共生する姿勢を育てる 生徒・保護者・教職員対象の講演会や研修等の取組みを進める イ 教員が寄り添いの姿勢を持ち、スクールカウンセラーらと協力し、生徒が声を上げやすい環境をつくる。学校生活に困難を伴う生徒については、就学支援委員会で情報を共有。保護者と連携しながら個別の支援計画を作り、充実した支援をめざす	ア 学校教育自己診断「平和や人権について学ぶ機会がある」85%以上［81%］ 教職員・保護者合同の研修会を再開 イ 学校教育自己診断「悩みを相談できる先生がいる」60%以上維持［62%］	
3 開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上	(1) 地域等との連携	ア 地域の中学校との運動部交流大会「香里カップ」や、文化交流イベント「香里フェス」を開く また、行事の公開、クリーン・キャンペーンなどで、地域連携の活性化を図る イ アクティブコースと大学（大阪音楽大学など）・専門学校（大阪医療福祉専門学校など）、探究活動と大学（関西大学、大阪工業大学など）などの連携・協働を継続し、豊かな学習環境を提供するよう努める	ア 「香里カップ」「香里フェス」を合わせ、5部以上を維持［６部］ 学校教育自己診断（教員）「地域や小中学校の人々と接する機会がある」60%以上［64%］ イ 連携・協働の継続と新規連携先の開拓	
	(2) 広報活動のさらなる充実	ア 総務部を中心に、ＨＰの更新、学校見学会等を通して中学校や地域に情報を発信する 学校説明会等で使う紹介動画等を、さらに魅力あるものにバージョンアップする イ 学校ブログやメール配信等でタイムリーな情報発信に努め、保護者との協力体制の強化を図る	ア 学校見学会の年３回実施を維持 参加者の延べ人数 900 人以上維持［955 人］ 学校教育自己診断（教員）「中学生やその保護者、地域に向けて情報提供や発信ができている」80%以上［80%］ イ 学校教育自己診断（保護者）「連絡や意思疎通が適切」90%以上［85%］	
	(3) 人材育成の取り組み	ア 「香里会（新任・若手を対象にした勉強会）」で、経験の少ない教員が自信をもって授業や生徒指導、保護者対応等にあたれるよう、先輩教員が指導。研究授業も実施する	ア 「香里会」年 10 回以上を維持［20 回］ 研究授業の実施回数（初任者：年２回以上、２年目：年１回以上）を維持 参加者アンケート肯定平均 95%以上維持［100%］	
	(4) 働き方改革の推進	ア プロジェクト委員会を中心に、さらなる業務の精選と組織の再構築を図り、より働きやすく生産性の高い職場をめざす イ ＩＣＴを活用するなどして、校内課題の共有化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる環境をつくる	ア 時間外勤務が月間 80 時間以上の教員の年間延べ人数 20 人以下［30 人］ イ 校内の課題や業務内容の共有、軽減策の具体的な進捗状況	
	(5) 施設・設備の充実と美化	ア 生徒・教職員等が快適で効率良く学校生活を過ごせるよう、設備・備品の更新や修理改修、整備に務める イ 定期的な大掃除等生徒主体の美化活動に取り組み、物を大切に扱う姿勢や美化意識の向上を促すとともに、快適な学習環境を整える	ア 学校教育自己診断「本校の施設・設備はよく整備されている」生徒・保護者とも生徒・保護者とも 75%以上［(生徒) 79%、(保護者) 74%］ イ 学校教育自己診断「校内美化や衛生管理に努めている」（保護者）80%以上を維持［88%］	